

(三) 若き日の思出

才十一、 炎整

才十二 恥い歩く

才十三 自棄酒

才十四 体 刑

昭和二年春迄

羅摩、林田、牛島

短編

創作

冒険物語

須永也

11

大抵 有り太陽は五分回り下りて来りて

この人だ。

年月

全身汗まみれに堪え居りて二重の扉は

中後に一たたか ちうのち 産戯を刻々又も

あつた 夢を 夢人事を引きつて 中何うかしてこつた

地盤を 文が光は 一たまも 無小 氣をため

乾き引つた 砂を 乾き 乾き 乾き 乾き

乾き引つた 砂を 乾き 乾き 乾き 乾き

乾き引つた 砂を 乾き 乾き 乾き 乾き

乾き引つた 砂を 乾き 乾き 乾き 乾き

乾き引つた 砂を 乾き 乾き 乾き 乾き

乾き引つた 砂を 乾き 乾き 乾き 乾き

乾き引つた 砂を 乾き 乾き 乾き 乾き

乾き引つた 砂を 乾き 乾き 乾き 乾き

乾き引つた 砂を 乾き 乾き 乾き 乾き

乾き引つた 砂を 乾き 乾き 乾き 乾き

乾き引つた 砂を 乾き 乾き 乾き 乾き

乾き引つた 砂を 乾き 乾き 乾き 乾き

乾き引つた 砂を 乾き 乾き 乾き 乾き

乾き引つた 砂を 乾き 乾き 乾き 乾き

乾き引つた 砂を 乾き 乾き 乾き 乾き

(1) 道政 授命人々猫奇のやに 焼きぬした身 通のげきに
 ほかくこさすうめあふと しゃり 和タシを外つし 生身 命をたした
 白鷺 頭より一 通り ぶき取った 徒ども 喜びをうた 未遂にわたり
 けわに けけた ひとかたを 中津 井つり へんたの ぼけつとに 安さ入て
 掃 掃事をおし来た

合一書

大木より
草刈井
を休めし
大木より
育をかいだ。

三
一
一
三
二
三
一

掃部人は、お力あたたいとて、牛馬舟をこらち、墨をまき、え
 しりかゝる事たと言ひ、其いやうに見した

[illegible]

僅五廿千畝
七畝
二畝

五料ヤ、
五ニ毛
ル所ニ
右ニ
カ

なけゝやうに言ふ 袂うと
にうとせぬ

藝文にイゼ
 こまなやうに
 日やうにちき
 するの如く
 新を力をつけし

牛舎が女だ
そゝ清々た

備了十年
この毒を食をうゝ人
始め一匹
五匹
十匹
百匹
千匹

ノ十時五分

[illegible]

~~来~~う指導人はかまをあげた。
右 昔
~~昔~~ 備へ
ホエゴには
徳の玲樹よりアカシヤの昔が

2 187 10

草木の皮に漆を塗る

[illegible]

子學 人書

未だびまんす下を四つ

4

(18) 十回でな、この子か、割れん、吉雄の仙事帖、こゝろ

煊

飯
手
か
母
下
友
な

わさきはかきふた

後方一區
巴方

何事爲之

[illegible]

余く日坊千銭いやうな

金といふの字も和字無ふ

りいふは
毎日を傷きたるも
なまや時とて無うかの

[illegible]

万世名光

入るもくもく
 解るが事い
 うさ取か
 せかき
 ちや
 へへ！
 キヤン
 ー
 だ
 だべー

4 ヲミレハヒ、
ア、ミ、リ、
ミ、タ、タ、
リ、

子
有
人
に
い
は
し
た
も
と
に
も
た
ら
ぬ

子君なつてゐるから
 眞實さゝ他は
 ちやいへん
 なる
 一

イカ 五五毛に焼す煎や 争に有士

ふ
あ
たの
一
つ
は。
な
!

終は
三言二言
物々
如た
教令
古く
た
た

掃帚人口半
おけな
人た
きや方！

善老夜以行

道
路
を
常
に
行
く
や
厚
に
堪
え
得
る
を
老
の
行
事
と
す

時を
ミイ
い
な
く
東
側
に
北
東
に
橋
を
か
し
た
り
と
い
ふ
事
は

彼はふたつとも手をはなれ、
その書に大いに

日
論

日
論
一
方
在
世
中
生
活

芳助半生電
北中かき
あつたせ、
たれもか、
あふだ金
一文張

うねあふ
生かす
暖かい
さる水
合ふは
世望の
望む

きたりつゝあつた。

(7)

父 千鶴オキキ身こしりーせんないしつゝもがた、
すくにやがらちかた

いふも丑田のヤツと時々の左う身に思ひくゝぶも時 一つの句にみ

旧前よりオキキ身こしりーせんないしつゝもがた、

信 善 老 成 に行かぬけまじと こと 事 矢つた 老人の信より 幸甚なる

思つた (おやほ 善老成に行かぬけまじと こと 事 矢つた 老人の信より 幸甚なる)

まゝな信をなす こと 事 矢つた 老人の信より 幸甚なる

と信はるをーやうとたか こと 事 矢つた 老人の信より 幸甚なる

やうう

善老成 こと 事 矢つた 老人の信より 幸甚なる

恵子の物語

恵子の栄光 老の栄光

縁の石橋
人物

村田 守雄

中米生 十八才

原田 愛之

中米生 十八才

矢田 直之

中米生 十八才

富田 権勝

中米生 十八才

原田 五平

中米生 十八才

原田 五平

中米生 十八才

場所

田舎

時代

現代 三月

長月な一様の雲も無き日正隆の夕方空 田舎の人の心算者、一花の梅を
美しうと云ふるに 斗つてのやうな 雲の影、前 花園は色んな花の咲き
一丈の光に 描かれたスミレが 三三三 頂上を 一丈の光に 描かれたスミレが
居る 一丈の光に 描かれたスミレが 三三三 頂上を 一丈の光に 描かれたスミレが

守一やん 来りやうと云ふ 守一やん 来りやうと云ふ 守一やん 来りやうと云ふ
守一やん オオオオオオオオオオ 守一やん オオオオオオオオオオ 守一やん オオオオオオオオオオ

守一やん 来りやうと云ふ 守一やん 来りやうと云ふ 守一やん 来りやうと云ふ
守一やん オオオオオオオオオオ 守一やん オオオオオオオオオオ 守一やん オオオオオオオオオオ

守一やん 来りやうと云ふ 守一やん 来りやうと云ふ 守一やん 来りやうと云ふ
守一やん オオオオオオオオオオ 守一やん オオオオオオオオオオ 守一やん オオオオオオオオオオ

守一やん 来りやうと云ふ 守一やん 来りやうと云ふ 守一やん 来りやうと云ふ
守一やん オオオオオオオオオオ 守一やん オオオオオオオオオオ 守一やん オオオオオオオオオオ

守一やん 来りやうと云ふ 守一やん 来りやうと云ふ 守一やん 来りやうと云ふ
守一やん オオオオオオオオオオ 守一やん オオオオオオオオオオ 守一やん オオオオオオオオオオ

直三は車庫の前は自動車を置き、
かやつかうた。 車庫のまじき口
針めに甘んじた。 車を待つ

た。 かねてきた。 夕陽が、
顔にのみすゝめを、
体質には此半勝、
さびた、さびた、ありあり

かよてきた。 夕陽が、
顔にのみすゝめを、
体質には此半勝、
さびた、さびた、ありあり

かよてきた。 夕陽が、
顔にのみすゝめを、
体質には此半勝、
さびた、さびた、ありあり

かよてきた。 夕陽が、
顔にのみすゝめを、
体質には此半勝、
さびた、さびた、ありあり

かよてきた。 夕陽が、
顔にのみすゝめを、
体質には此半勝、
さびた、さびた、ありあり

かよてきた。 夕陽が、
顔にのみすゝめを、
体質には此半勝、
さびた、さびた、ありあり

かよてきた。 夕陽が、
顔にのみすゝめを、
体質には此半勝、
さびた、さびた、ありあり

かよてきた。 夕陽が、
顔にのみすゝめを、
体質には此半勝、
さびた、さびた、ありあり

かよてきた。 夕陽が、
顔にのみすゝめを、
体質には此半勝、
さびた、さびた、ありあり

かよてきた。 夕陽が、
顔にのみすゝめを、
体質には此半勝、
さびた、さびた、ありあり

かよてきた。 夕陽が、
顔にのみすゝめを、
体質には此半勝、
さびた、さびた、ありあり

かよてきた。 夕陽が、
顔にのみすゝめを、
体質には此半勝、
さびた、さびた、ありあり

かよてきた。 夕陽が、
顔にのみすゝめを、
体質には此半勝、
さびた、さびた、ありあり

かよてきた。 夕陽が、
顔にのみすゝめを、
体質には此半勝、
さびた、さびた、ありあり

月をたきに富にも
 いくも倦みお花が
 なくあほうかき
 妙おききしり生
 活なうた

卷一
七

一
 世
 は
 ま
 一
 に
 方
 う
 と
 依
 十
 を
 妨
 う
 と
 幾
 う
 の
 オ
 マ
 子
 井
 川
 の
 墨
 院
 に
 は

何の变化も
なく
友人に
お土産を
送る

いふ人た
オクまてり
あつた
あつた

もたゐた

佐々
しやう事
に
い
スリと
し
持を
付
て
う
て
言
き
り
壹の
持
に
有
や
を
食
は
た

[illegible]

後道に牛を
12

友 けいこ
しやつぎんぎんぐも

その日、

西意 社 冊 中 分 いた 表 情 下
リ ども 来 一 年 ク ソ お ち う ぎ に 一 斗 七 十 粒 生 心

なきにゆしうた

新
 本
 も
 又
 と
 け
 た

靴もとりた
やんこいふた
體息に下へ
下へ、打
下へに體息
をかきした
靴下を

投
り
す
ゝ
た

たう能り 俺は 鴨 池のすのりもなつた、筆は生 筆 めのふふ

李松年

平人、海軍、水、外交、技術、人権、共、一、其、回、の、為、

[illegible]

山
炭
す
ろ
男
け
の
女
一

はは
地震が
おこす
原因
は
地盤
の
不安
定
な
こと
に
よ
る
と
い
う
説
が
あ
る
。

[illegible]

中主五女もかたろめり

正
之
年
子

星洲の

一 尤寸七郎うと ^{（三）} 三人 左は 不平を 持て 来り 又
 ちう 言は 後者 は 年々 の 所を 取 引 せ し
 況 ぬ 義 方 あり 市 場 一 元 水 の 高 年 以下 七 二

の 芳 望 也
交 友 した

下

第12 豊彦の夢と ほかのモリシタ

萬一有之 則一に之を厚みず

利月考
預云

無心に古くより

己 年三 月 廿 五 日 生

水は
びり
とろ
重々
花壇
莊
地
亭に
器
店に
夜中
~~痛~~
あり
刺す

くりやうした。

名の如く
下を
言を
用か
三見
方
差
持
て
た
に
な
り
ま
た。
又
さ
き
の
如
く
等
に
な
る。

書
功
訓
今
日
是
在
伯
也
心
切
也
公
承
在
今
明
天

27

臺 難 難 天 烟 日 外 和 言 上 下 水 一 一
 な 鏡 車 一 一
 ば 一 一

金し 増え 髪で 軽くし 掃く まし
し へん へん へん へん

いふことと君の筆外例が、筆心筆意厚くよくある
三郎君も筆が上手になつたな—— 山智次

事々々
ア—
ア—
ア—
言ふぢや
やう上
金を
引た

そりや
が、
た
く
す。

びきり事にして
サヤヤと急いです
私にサヤヤをきこ
たれど我もなう
うたれた。

予ス
以て
其を
在る
ニ
三度
俾こ
見たり
ヤ
方々
中事

(ヘー　　ー　　ー　　と　　也　　惠　　か　　だ　　ら　　つ　　て　　も　　持　　こ　　ま　　へ　　い　　)

ま
バ
フ
イ
ー
る
は
ニ
キ
エ
い
ビ
イ
々
い
あ
づ
は
ぬ
ー
ん
き
と
う
あ

三宅孝
カサミ
フルを
ゆくと
持て来し
學の前
び
空を飛ん
はめ
ゆめ

214 同 轉子 外 市 田 及 子

存光に
あふや
じう
ち

いづも 雲いやぶずぬー ちやこ 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100 101 102 103 104 105 106 107 108 109 110 111 112 113 114 115 116 117 118 119 120 121 122 123 124 125 126 127 128 129 130 131 132 133 134 135 136 137 138 139 140 141 142 143 144 145 146 147 148 149 150 151 152 153 154 155 156 157 158 159 160 161 162 163 164 165 166 167 168 169 170 171 172 173 174 175 176 177 178 179 180 181 182 183 184 185 186 187 188 189 190 191 192 193 194 195 196 197 198 199 200 201 202 203 204 205 206 207 208 209 210 211 212 213 214 215 216 217 218 219 220 221 222 223 224 225 226 227 228 229 230 231 232 233 234 235 236 237 238 239 240 241 242 243 244 245 246 247 248 249 250 251 252 253 254 255 256 257 258 259 260 261 262 263 264 265 266 267 268 269 270 271 272 273 274 275 276 277 278 279 280 281 282 283 284 285 286 287 288 289 290 291 292 293 294 295 296 297 298 299 300 301 302 303 304 305 306 307 308 309 310 311 312 313 314 315 316 317 318 319 320 321 322 323 324 325 326 327 328 329 330 331 332 333 334 335 336 337 338 339 340 341 342 343 344 345 346 347 348 349 350 351 352 353 354 355 356 357 358 359 360 361 362 363 364 365 366 367 368 369 370 371 372 373 374 375 376 377 378 379 380 381 382 383 384 385 386 387 388 389 390 391 392 393 394 395 396 397 398 399 400 401 402 403 404 405 406 407 408 409 410 411 412 413 414 415 416 417 418 419 420 421 422 423 424 425 426 427 428 429 430 431 432 433 434 435 436 437 438 439 440 441 442 443 444 445 446 447 448 449 450 451 452 453 454 455 456 457 458 459 460 461 462 463 464 465 466 467 468 469 470 471 472 473 474 475 476 477 478 479 480 481 482 483 484 485 486 487 488 489 490 491 492 493 494 495 496 497 498 499 500 501 502 503 504 505 506 507 508 509 510 511 512 513 514 515 516 517 518 519 520 521 522 523 524 525 526 527 528 529 530 531 532 533 534 535 536 537 538 539 540 541 542 543 544 545 546 547 548 549 550 551 552 553 554 555 556 557 558 559 560 561 562 563 564 565 566 567 568 569 570 571 572 573 574 575 576 577 578 579 580 581 582 583 584 585 586 587 588 589 590 591 592 593 594 595 596 597 598 599 600 601 602 603 604 605 606 607 608 609 610 611 612 613 614 615 616 617 618 619 620 621 622 623 624 625 626 627 628 629 630 631 632 633 634 635 636 637 638 639 640 641 642 643 644 645 646 647 648 649 650 651 652 653 654 655 656 657 658 659 660 661 662 663 664 665 666 667 668 669 670 671 672 673 674 675 676 677 678 679 680 681 682 683 684 685 686 687 688 689 690 691 692 693 694 695 696 697 698 699 700 701 702 703 704 705 706 707 708 709 710 711 712 713 714 715 716 717 718 719 720 721 722 723 724 725 726 727 728 729 730 731 732 733 734 735 736 737 738 739 740 741 742 743 744 745 746 747 748 749 750 751 752 753 754 755 756 757 758 759 760 761 762 763 764 765 766 767 768 769 770 771 772 773 774 775 776 777 778 779 780 781 782 783 784 785 786 787 788 789 790 791 792 793 794 795 796 797 798 799 800 801 802 803 804 805 806 807 808 809 810 811 812 813 814 815 816 817 818 819 820 821 822 823 824 825 826 827 828 829 830 831 832 833 834 835 836 837 838 839 840 841 842 843 844 845 846 847 848 849 850 851 852 853 854 855 856 857 858 859 860 861 862 863 864 865 866 867 868 869 870 871 872 873 874 875 876 877 878 879 880 881 882 883 884 885 886 887 888 889 890 891 892 893 894 895 896 897 898 899 900 901 902 903 904 905 906 907 908 909 910 911 912 913 914 915 916 917 918 919 920 921 922 923 924 925 926 927 928 929 930 931 932 933 934 935 936 937 938 939 940 941 942 943 944 945 946 947 948 949 950 951 952 953 954 955 956 957 958 959 960 961 962 963 964 965 966 967 968 969 970 971 972 973 974 975 976 977 978 979 980 981 982 983 984 985 986 987 988 989 990 991 992 993 994 995 996 997 998 999 1000 1001 1002 1003 1004 1005 1006 1007 1008 1009 1010 1011 1012 1013 1014 1015 1016 1017 1018 1019 1020 1021 1022 1023 1024 1025 1026 1027 1028 1029 1030 1031 1032 1033 1034 1035 1036 1037 1038 1039 1040 1041 1042 1043 1044 1045 1046 1047 1048 1049 1050 1051

三言子
幸吉左様
和は
折々
二ノ
四や
五
六
七
八
九
十

三十七
見^行長^時
本^時
又^時
華^時
乙^時
子^時
子^時

317 七 揚こま、やうにとろをう。

同知あり、三宅は重光の友

其の冒失なるを以て
前より
私事
已むる人

い
三
フイルと
フイルと

井女ノキナ 色を白くした。

井女よりききし 色づきしを 三つ、三つ
 とろしむ人な うれしが やうに 了ん 後名 びすめ
 乙女身は 有い人 びすめ

そとすゑに
かきかへて
かきかへて

どうして、
取つて来ても
おれを、

へーエ、ふも 明日 和歌に かなふふ

へーエ、でもも 明日 新着に合きまう
 へーエ、でもも 和子花取うた 田の福 期は
 へーエ、でもも 和子花取うた 田の福 期は
 へーエ、でもも 和子花取うた 田の福 期は

[illegible]

127
1
—

46
12
何と云ふ事か。此事を言ふ事
に、心の中を、
通つて、
云ふ事か。

何()
電()
下
人
言
と
言
た。

何事にも二ふて
何事にも二ふて

山部が急を思ひ出たにやうな驚き

り
た
く
言
行
親
目
も
う
か

中
邦
本

と
ま
つ
た

し
み
や

あ
ら
わ
い
な
い

砂に土は
成の地は月欠
主折るにや

[illegible][illegible]

明
氏
以
下
地
之
目
一

第
二
段
の
付
け
左
右
端
7
1
1
8

[illegible][illegible]

和山考にゆきをたて何か暑かきなり

1
 2
 3
 4
 5
 6
 7
 8
 9
 10
 11
 12
 13
 14
 15
 16
 17
 18
 19
 20
 21
 22
 23
 24
 25
 26
 27
 28
 29
 30
 31
 32
 33
 34
 35
 36
 37
 38
 39
 40
 41
 42
 43
 44
 45
 46
 47
 48
 49
 50
 51
 52
 53
 54
 55
 56
 57
 58
 59
 60
 61
 62
 63
 64
 65
 66
 67
 68
 69
 70
 71
 72
 73
 74
 75
 76
 77
 78
 79
 80
 81
 82
 83
 84
 85
 86
 87
 88
 89
 90
 91
 92
 93
 94
 95
 96
 97
 98
 99
 100

上方より
かゝる
文書

たけなす
たけなす
たけなす
たけなす
たけなす

山習乙来行父去リ今来在

日修
一
田
12
百
十
井人

1) 今
 2) 10
 3) 10
 4) 10
 5) 10
 6) 10
 7) 10
 8) 10
 9) 10
 10) 10
 11) 10
 12) 10
 13) 10
 14) 10
 15) 10
 16) 10
 17) 10
 18) 10
 19) 10
 20) 10
 21) 10
 22) 10
 23) 10
 24) 10
 25) 10
 26) 10
 27) 10
 28) 10
 29) 10
 30) 10
 31) 10
 32) 10
 33) 10
 34) 10
 35) 10
 36) 10
 37) 10
 38) 10
 39) 10
 40) 10
 41) 10
 42) 10
 43) 10
 44) 10
 45) 10
 46) 10
 47) 10
 48) 10
 49) 10
 50) 10
 51) 10
 52) 10
 53) 10
 54) 10
 55) 10
 56) 10
 57) 10
 58) 10
 59) 10
 60) 10
 61) 10
 62) 10
 63) 10
 64) 10
 65) 10
 66) 10
 67) 10
 68) 10
 69) 10
 70) 10
 71) 10
 72) 10
 73) 10
 74) 10
 75) 10
 76) 10
 77) 10
 78) 10
 79) 10
 80) 10
 81) 10
 82) 10
 83) 10
 84) 10
 85) 10
 86) 10
 87) 10
 88) 10
 89) 10
 90) 10
 91) 10
 92) 10
 93) 10
 94) 10
 95) 10
 96) 10
 97) 10
 98) 10
 99) 10
 100) 10

半古きヲヤシ人方不意ニ

先將七引至也後之
不致
隨經而下

[illegible]

甘
の
人
が
中
に
入
る
ま
じ
ら
ん
な
い
と
い
ふ
は
あ
り
ま
せ
ん

心
電
氣
を
か
き
つ
け
て
お
く
と
う
な
ら
ば
あ
り
ま
せ
ん

山ノ下
山ノ上
山ノ中
山ノ外

[illegible]

有光

4) 3, 2, 1, 0
↓
1, 2, 3, 4

所在の管前ニ来レ

おーたまゑ
もろくはが
あふふ。

しんも本本

とても大きな

（さうか）

（さうか）

（さうか）

（さうか）

（さうか）

（さうか）

（さうか）

（さうか）

（さうか）

（さうか）

（さうか）

（さうか）

（さうか）

（さうか）

（さうか）

（さうか）

（さうか）

（さうか）

（さうか）

（さうか）

（さうか）

（さうか）

（さうか）

（さうか）

（さうか）

（さうか）

（さうか）

和は 山形 あり 佐藤 を 送 信 した 友 郎 協会の 協力を 得て 1.0

本方の知能
知能は平々
常事にて
是れ方、
可也

又当如き考判だ

今收信
27
有
分
共

ヤ
(又) へりち 終りし び 行 後 見 古に 入 安 五 子 化 不 聖 女 と 事

お金に 着 味 方 迄 は 美 しい こと 無 事 印 入

九、德意志銀行

9月
庄英集を
全書
苦訓に
將
事
本持の
込格に

月 廿四 奉 勅 古の心を古の書に求む
古の心を古の書に求む

短篇創作 やや原

NO.....

紙 用 稿 原 誌 雜

ばと誰かかな!

利は中を市田けのこまど古年のふしやをすた。石の寄前
田の寄前の上にはこの頂を並べて居た。まゝと回って半分の寄前
のむけた頂をのむつて見た。曰は横たは頂。おゝまゝ。まゝ頼り
が中。再び思ふなかな。

それにも一朱金体、どうもなう。

利は田中、お寄前、お月夜も前より仕事は人にあつて遊び回すこ
ろを知り居た。妙も甚い女を。それと娘たち、まゝしも、人の意見は
曰ふ子女の同伴して居た男が、曰ふ言ひの、中、其、中、さういふを
運水の色、さういふ様をまきさういふ、~~同~~手、舞、心、居、が、思、事
木、居、た、か、つた。

いぢうにも、自ら、永に、歸、る、人、の、永に、事、を、人、に、居、た、方、一。
利は、意に、感、悟、を、投、擲、を、な、う、お、寄、前、を、か、つた。

寄前も、月夜を、お、利、は、お、寄、前、に、無、か、た。幾、重、の、幾、重、の
変、道、り、を、打、つた。まゝ思、を、付、若、若、若、に、何、年、か、と、思、う、こ、ま、せ、つた。
お、寄、前、は、敗、れた。利、は、未、だ、見、ぬ、お、寄、前、一。お、寄、前、こ、ま、こ、た、は、結、婚、の

指、が、か、一、百、百、文、の、頂、を、お、寄、前、に、持、ち、た。利、は、お、寄、前、に、情、を、込、め、た、お、寄、前、の
お、寄、前、の、上、を、頂、の、か、つた、お、寄、前、は、

利、は、隆、は、(幾、重、の、米) お、寄、前、を、さ、が、し、お、寄、前、に、言、ふ、け、れ、ど、お、寄、前、は、
一、も、一、親、類、も、皆、足、で、お、寄、前、を、生、き、た、お、寄、前、は、

のほ、母の求めでやせぬと結婚は出来ぬが結婚はしない、
何の道に迷ふに妻を産む人だと自らを告げられた
た。

「君やー他事は行方不明」

前日はおけ替を中へ替書の上から取りかいた。

やせぬ。馬鹿くー。何れに在るもの。それやと。事

田中君は「いー」人だ。泊る人へ始めた。下宿の女房と

新は田中に何かある事件が、さういふのもある。田中君は

一人だ。解いた。彼の事、さういふ事だ。田中君は

田中君は「いー」人だ。

前日は「いー」人だ。

朝、いー。多説や。無り。又女の事だ。

新はおや。事を。前田の。いー。人だ。

「いー」死にた。死にた。生きた。若は生きた。

新は「いー」死にた。死にた。生きた。若は生きた。

友人一人、いー。死にた。死にた。生きた。若は生きた。

牛き。朝、いー。死にた。死にた。生きた。若は生きた。

之想。無き。朝、いー。死にた。死にた。生きた。若は生きた。

前日も。死にた。死にた。生きた。若は生きた。

いー。死にた。死にた。生きた。若は生きた。

田中はかやろの
然るに
由を
幾度
其もの
事を
なす
は
い
ろ
ろ
と

又た。
 嗚を
 少さ
 以て
 事か
 なる
 と。
 カヤ
 ニと
 格
 納
 腰を
 は
 せ
 上
 下
 の
 重
 重

一平
 へは
 無
 かつた。
 三木
 も
 時
 さま
 の
 来
 りは
 申
 かつた
 故
 外に
 告
 げ

水もあつ
 るにた
 り、東の
 歌も
 へった。
 27
 7
 場には
~~水もあつ~~
 へ
 水もあ
 つた。

[illegible]

いんた。
おん下物を揃うに
公道の足裏、よきに
着、い
草花柳傳

振
 に
 包
 手
 十
 五、
 甚
 だ
 け
 に
 生
 た
 ら
 大
 変
 難
 々
 の
 オ
 レ
 や
 パ
 ナ
 を
 買
 い
 込
 ん
 だ
 金

リか、リの音を抑えに
この音への音が
のきき方をとるが、
は、は、は、は、は、は、

子の心は十分だった。田舎（田舎）は
 子どもの心を育てるのに
 最適な場所だった。

給ふた雲や白樺に毫の塵も下りず
華蓋を散らすあたりに一軒二軒

[illegible][illegible]

新築は
何室に
分けた
か
毛
無
か
性
格
ま
あ
す
た
け
て
す
ま
ま
に
た
。

軍 事
 事トウを
 目字に
 万ノ軍
 増え
 思お
 せの
 やま
 上つ
 べの
 とも
 いま
 上つ
 所を

るやうに
目撃者に水あつた候ふこ
方々のむねをたずねたりと
保身と生計
うもて平

と
 1
 2
 3
 4
 5
 6
 7
 8
 9
 10
 11
 12
 13
 14
 15
 16
 17
 18
 19
 20
 21
 22
 23
 24
 25
 26
 27
 28
 29
 30
 31
 32
 33
 34
 35
 36
 37
 38
 39
 40
 41
 42
 43
 44
 45
 46
 47
 48
 49
 50
 51
 52
 53
 54
 55
 56
 57
 58
 59
 60
 61
 62
 63
 64
 65
 66
 67
 68
 69
 70
 71
 72
 73
 74
 75
 76
 77
 78
 79
 80
 81
 82
 83
 84
 85
 86
 87
 88
 89
 90
 91
 92
 93
 94
 95
 96
 97
 98
 99
 100
 101
 102
 103
 104
 105
 106
 107
 108
 109
 110
 111
 112
 113
 114
 115
 116
 117
 118
 119
 120
 121
 122
 123
 124
 125
 126
 127
 128
 129
 130
 131
 132
 133
 134
 135
 136
 137
 138
 139
 140
 141
 142
 143
 144
 145
 146
 147
 148
 149
 150
 151
 152
 153
 154
 155
 156
 157
 158
 159
 160
 161
 162
 163
 164
 165
 166
 167
 168
 169
 170
 171
 172
 173
 174
 175
 176
 177
 178
 179
 180
 181
 182
 183
 184
 185
 186
 187
 188
 189
 190
 191
 192
 193
 194
 195
 196
 197
 198
 199
 200
 201
 202
 203
 204
 205
 206
 207
 208
 209
 210
 211
 212
 213
 214
 215
 216
 217
 218
 219
 220
 221
 222
 223
 224
 225
 226
 227
 228
 229
 230
 231
 232
 233
 234
 235
 236
 237
 238
 239
 240
 241
 242
 243
 244
 245
 246
 247
 248
 249
 250
 251
 252
 253
 254
 255
 256
 257
 258
 259
 260
 261
 262
 263
 264
 265
 266
 267
 268
 269
 270
 271
 272
 273
 274
 275
 276
 277
 278
 279
 280
 281
 282
 283
 284
 285
 286
 287
 288
 289
 290
 291
 292
 293
 294
 295
 296
 297
 298
 299
 300
 301
 302
 303
 304
 305
 306
 307
 308
 309
 310
 311
 312
 313
 314
 315
 316
 317
 318
 319
 320
 321
 322
 323
 324
 325
 326
 327
 328
 329
 330
 331
 332
 333
 334
 335
 336
 337
 338
 339
 340
 341
 342
 343
 344
 345
 346
 347
 348
 349
 350
 351
 352
 353
 354
 355
 356
 357
 358
 359
 360
 361
 362
 363
 364
 365
 366
 367
 368
 369
 370
 371
 372
 373
 374
 375
 376
 377
 378
 379
 380
 381
 382
 383
 384
 385
 386
 387
 388
 389
 390
 391
 392
 393
 394
 395
 396
 397
 398
 399
 400
 401
 402
 403
 404
 405
 406
 407
 408
 409
 410
 411
 412
 413
 414
 415
 416
 417
 418
 419
 420
 421
 422
 423
 424
 425
 426
 427
 428
 429
 430
 431
 432
 433
 434
 435
 436
 437
 438
 439
 440
 441
 442
 443
 444
 445
 446
 447
 448
 449
 450
 451
 452
 453
 454
 455
 456
 457
 458
 459
 460
 461
 462
 463
 464
 465
 466
 467
 468
 469
 470
 471
 472
 473
 474
 475
 476
 477
 478
 479
 480
 481
 482
 483
 484
 485
 486
 487
 488
 489
 490
 491
 492
 493
 494
 495
 496
 497
 498
 499
 500
 501
 502
 503
 504
 505
 506
 507
 508
 509
 510
 511
 512
 513
 514
 515
 516
 517
 518
 519
 520
 521
 522
 523
 524
 525

と昨の
差はまふ
おはまり
たは。
新著
おはまり
解
世に
著る
者。や

方糸を糸型に生かすに注意。
解ける骨に押しつけ
やうな力の
をかける

1
2
1
2
3
2
3

い
あ
か
〜
す
)

わうじまわんぶとあしたあ

い
ろ
し

日
十
ク
つ
ち
の
め
け
に
福
を
味
の
ま
じ
ら
ん
ど
と
和
の
お
な
げ
た

葛 12 共 34 14 10

平家平家
短編、体々、紋婚、三條、朱の書

あつた。結婚生活に入ると、二針と七方の、お金の無つた
か、最近をきつて、毎日、身体の変調期、二三日、前より
其期、日本中、厚い、太、相、い、人、き、こ、こ、ス、テ、リ、見、た、い、に
懸、一、や、文、分、に、さ、え、あ、く、不、す、す、思、あ、ま、つ、老、ま、り、と、思、あ
め、も、受、婚、一、に、航、二、の、事、を、頃、に、は、べ、と、送、る、一、一、休、け、
れ、さ、く、あ、ま、く、居、る、や、う、左、衛、門、一、さ、に、お、く、す、水、ま、す、
あ、が、た、の、夫、と、信、望、す、る、や、う、に、あ、つ、た、の、は、父、娘、長、の、
特、改、め、の、難、生、活、の、之、助、著、い、あ、う、た、人、の、世、話、で、見、命、助、助、
一、た、り、で、す、あ、う、う、勿、論、相、愛、一、た、の、い、せ、い、事、は、分、り、あ、う、
た、事、で、す、私、は、此、の、生、活、を、か、た、あ、い、は、婚、か、こ、う、一、た、助、
機、あ、う、或、一、た、物、お、け、に、一、雷、姓、目、を、改、め、た、初、意、を、男、
の、り、に、さ、い、あ、ま、れ、の、で、す、
え、二、は、喜、望、の、ま、の、田、屋、中、を、幸、甚、一、た、ま、一、た、や、の、
リ、バ、一、た、く、其、後、も、亦、も、ま、り、一、た、
や、う、お、お、り、き、き、う、べ、一、た、
意、の、父、は、宿、が、日、本、の、知、り、の、は、何、
れ、も、持、つ、こ、ま、た、一、た、
瑞、庭、の、使、知、を、け、る、事、を、し、
三、条、等、
親、子、の、中、に、住、ま、事、を、あ、り、チ、一、た、
此、は、非、常、に、け、く、う、で、
玉、主、流、の、生、活、を、こ、お、う、方、に、
露、知、を、無、子、
た、の、い、は、は、驚、き、う、こ、思、得、一、す、た、か、
父、は、
教、育、の、力、を、一、た、
親、子、を、

此は朝露を流して居る。此は彼がサレウケも作つてやうな

サレウケも作つてやうな。オレがハナナ

サレウケも作つてやうな。

サレウケも作つてやうな。

おにやうな彼が顔が暗い。おにやうな水の音も流す。おにやうな

おにやうな彼が顔が暗い。

サレウケも作つてやうな。サレウケも作つてやうな。

サレウケも作つてやうな。サレウケも作つてやうな。

サレウケも作つてやうな。

サレウケも作つてやうな。

サレウケも作つてやうな。

サレウケも作つてやうな。

サレウケも作つてやうな。

サレウケも作つてやうな。

サレウケも作つてやうな。

サレウケも作つてやうな。

サレウケも作つてやうな。

サレウケも作つてやうな。

サレウケも作つてやうな。

サレウケも作つてやうな。

付とらまいたー クリス一人取れた方ー！

ノーマカマ

「そうお母さんにくづりて 金とオマ、こ方十

いやれーなりだ」

氣は儲かそ誰に 言つたをわこをたあろ せうる氣持をの 楚ろふと

一也 ナリかたがた フーこ 佐の親も 足が事やうにきた

魚船 ねえ いやう ちんちー かーろー いこうぢん だと言の

に、文二は馬鹿をおもひを 言わあふあつたを 思はなかつた

「かーろが 十人重を牛ーな」

佐ぬまを 運こへ来た。 かーろの 横窓に ソーヤに 出たが 馬に 孫に

文二は かつた無さういふを 言つた

文二は 入に きた 船を 金屋も 出さ 金も 解ちた

ストライキに 出た 運きの 全身を 現し 文二が うれしく 動一

た。 文二は 何の 力も 金も 出さ 乾き うちの 盡れた ため の 光 だ

さや かーろに かつた 船を 出た

「アハハ」

気事や 由事 事と して ノーを 持に 知れ 足 鬼 つかつた

接合の 熱つ 足が 力り 瞳あろ ぬけろ した 現像に くる へ 佐あ 等

佐あ 男 鬼に した 顔に 驚き 出た

文二の 精進は 長巻は 現像の うなりで 持込 山に 要平 した

一分 二分 三分 四分 五分 六分 七分 八分 九分 十分 十一分 十二分 十三分 十四分 十五分 十六分 十七分 十八分 十九分 二十分 二十一分 二十二分 二十三分 二十四分 二十五分 二十六分 二十七分 二十八分 二十九分 三十分 三十一分 三十二分 三十三分 三十四分 三十五分 三十六分 三十七分 三十八分 三十九分 四十分 四十一分 四十二分 四十三分 四十四分 四十五分 四十六分 四十七分 四十八分 四十九分 五十分 五十一分 五十二分 五十三分 五十四分 五十五分 五十六分 五十七分 五十八分 五十九分 六十分 六十一分 六十二分 六十三分 六十四分 六十五分 六十六分 六十七分 六十八分 六十九分 七十分 七十一分 七十二分 七十三分 七十四分 七十五分 七十六分 七十七分 七十八分 七十九分 八十分 八十一分 八十二分 八十三分 八十四分 八十五分 八十六分 八十七分 八十八分 八十九分 九十分 九十一分 九十二分 九十三分 九十四分 九十五分 九十六分 九十七分 九十八分 九十九分 百分

レカカビチ中集オモテウタ
五
オモテ

そふ考、こ貝左きり
そふに、飯あふに七
目や、且左きり

ついでに、
「や、大々々、
かーろは、
オーライ、
です」

オラノイド
夕のふしくの横顔

[illegible]

幸は
 文三の
 甥と
 夕々
 ぬき
 ク
 宛を
 世に
 移す
 其に
 未だ
 未だ
 いた
 とい
 ても
 方
 ぬと
 言
 へ
 ず

一一一

キー低下かつく
新たるよつべふ
用書をも書方取ま
無下女之文

かしはく
 井ノ下
 坊々下
 妻用左心
 一

田の
あう
う
い
文
は
直ぐ
世
に
ま
う
た。

幸は 乃の 今 男 孫 傳 傳 事 業 表 々 用 あり 止 却 方 と 止 田 又 吉 何 と 来 上 静 心

新
 増
 一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。

一、か せ き し あ い い い も た い

えー 吉野 ちよん

上
來
當
子
一
五
二
堂
一
年
在
一
楚
人
人
也

は 培ちてと云ふ

我は也さす方には、
言等、何へや、
言等、何へや、
言等、何へや、

言等、何へや、
言等、何へや、
言等、何へや、

言等、何へや、
言等、何へや、
言等、何へや、

言等、何へや、
言等、何へや、
言等、何へや、

言等、何へや、
言等、何へや、
言等、何へや、

言等、何へや、
言等、何へや、
言等、何へや、

言等、何へや、
言等、何へや、
言等、何へや、

言等、何へや、
言等、何へや、
言等、何へや、

言等、何へや、
言等、何へや、
言等、何へや、

言等、何へや、
言等、何へや、
言等、何へや、

言等、何へや、
言等、何へや、
言等、何へや、

言等、何へや、
言等、何へや、
言等、何へや、

言等、何へや、
言等、何へや、
言等、何へや、

言等、何へや、
言等、何へや、
言等、何へや、

言等、何へや、
言等、何へや、
言等、何へや、

言等、何へや、
言等、何へや、
言等、何へや、

言等、何へや、
言等、何へや、
言等、何へや、

言等、何へや、
言等、何へや、
言等、何へや、

田に人、おのれも海に舟つたれこ山に育つた人の言はた
しれずやがれ、此の事ありきに、道なきに山越ゆるは、
や、事なきありきに

おのれも海に舟つたれこ山に育つた人の言はた、
しれずやがれ、此の事ありきに、道なきに山越ゆるは、
や、事なきありきに

おのれも海に舟つたれこ山に育つた人の言はた、
しれずやがれ、此の事ありきに、道なきに山越ゆるは、
や、事なきありきに

おのれも海に舟つたれこ山に育つた人の言はた、

おのれも海に舟つたれこ山に育つた人の言はた、

おのれも海に舟つたれこ山に育つた人の言はた、

おのれも海に舟つたれこ山に育つた人の言はた、

おのれも海に舟つたれこ山に育つた人の言はた、

おのれも海に舟つたれこ山に育つた人の言はた、

おのれも海に舟つたれこ山に育つた人の言はた、

おのれも海に舟つたれこ山に育つた人の言はた、

おのれも海に舟つたれこ山に育つた人の言はた、

おのれも海に舟つたれこ山に育つた人の言はた、